

平成21年度伊方原子力発電所周辺環境放射線等調査計画（概要）

線部は前年度からの変更箇所

環境放射線等調査計画

1 目的

~~周辺住民等の線量を推定・評価すること。の推定及び評価~~
~~環境における放射性物質の蓄積状況を把握すること。の把握~~
~~原子力施設からの予期しない放射性物質又は放射線の放出による周辺環境への影響の評価に資すること。の早期検出及び周辺環境への影響評価~~
~~異常事態発生時の通報があった場合に、平常時のモニタリングを強化するとともに、緊急時モニタリングの準備を開始できるように体制を整えること。異常事態又は緊急事態が発生した場合における環境放射線モニタリングの実施体制の整備~~

2 調査機関

愛媛県及び四国電力㈱

3 調査期間

平成21年4月1日～平成22年3月31日

4 調査項目、頻度及び地点数

「環境放射線モニタリング指針」に準じ、下表のとおり実施。
 前年度からの変更点は、特でない。

(愛媛県実施分)

項 目		頻度	地点数		
放射線	線量率(固定局)	連続	8(九町越他)		
	(定 点・スペクトロメータ)	4回	10(九町越他)		
	(定 点・モニタリングカー等)	4回	6(発電所敷地境界他)		
	(定 点・伝送式可搬型ポスト)	2回	6(九町越他)		
	(定 点・サーベイメータ)	2回	68(緊急時モニタリング候補地点)		
	(走行測定)	4回	3ルート		
積算線量(蛍光ガラス線量計)		4回	30(九町越他)		
放射能濃度	核種分析等	陸上試料	大気浮遊じん(固定局)	連続	1(九町越)
			"(定 点)	4回	5(九町越他)
		河川水	4回	1(九町)	
		土 壤	4回	3(九町越他)	
		み かん	1回	10(九町越他)	
		野 菜(ほうれん草等)	2回	3(九町他)	
		杉 葉	4回	2(九町越他)	
		降下物、降水	12回	2(九町越他)	
		海洋試料	海 水	4回	1(平瀬透堤沖)
			海底土	4回	2(平瀬透堤北東他)
			魚 類(めばる等)	4回	1(九町越沖)
			無脊椎動物(むらさきがい等)	4回	1(九町越沖)
			海藻類(ほんだわら等)	4回	1(九町越沖)
	気象要素(風向、風速、降雨量、気温等)		連続	1(九町越)	

(四国電力(株)実施分)

項 目			頻度	地 点 数	
放射線	線量率(固定局)		連続	5(九町越他)	
	(定 点・サーベ-タ)		4回	4(発電所敷地境界)	
	積算線量(蛍光ガラス線量計)		4回	25(発電所敷地境界他)	
放射能濃度	核種分析等	陸上試料	大気浮遊じん	4回	1(九町越)
			土 壤	2回	3(九町越他)
		み かん	2回	2(九町越他)	
		杉 葉	4回	1(九町越)	
	海洋試料	海 水	4回	2(平瀬透過堤沖他)	
		海底土	2回	3(平瀬透過堤北東他)	
		無脊椎動物(さざえ)	4回	1(九町越沖)	
		海藻類(ほんだわら等)	4回	2(九町越沖他)	

5 調査結果の評価方法

項 目		評 価 方 法
放射線	線量率	・降雨時と降雨時以外に分け、過去2年間の「平均値 + 標準偏差の3倍」と比較
	積算線量	・愛媛県実施分については、原則、過去の測定値の最小値、最大値、「平均値 + 標準偏差の3倍」と比較 ・四国電力(株)実施分については、過去の測定値の最大値、最小値並びに熱ルミネセンス線量計による過去10年間の最小値、最大値、「平均値 + 標準偏差の3倍」と比較 ・測定結果から外部被ばく線量を算出
放射能濃度	核種分析	・代表的な人工核種であるコバルト-60、セシウム-137、ヨウ素-131について、過去の最小値、最大値と比較 ・土壌、海底土中のセシウム-137の変動状況の評価 ・農水産食品の測定結果から内部被ばく線量を算出
	全ベ-タ放射能	・過去の最小値、最大値、「平均値 + 標準偏差の3倍」と比較

放射性物質の放出管理状況に基づく線量評価計画

- 1 評価機関 愛媛県及び四国電力(株)
- 2 測定及び評価の方法

発電所からの気体、液体廃棄物の放出放射エネルギー及び気象状況から、国が定める計算方法により、周辺公衆の線量を評価し、安全協定に定める努力目標値(マイクシーベルト/年)と比較する。

——モニタリングカーによる自然放射線量率分布調査
(項目を削除。)